

申請者の現状(基本情報)(例)

作成日	平成29年9月1日	相談支援事業者名	相談支援センター ほっとらいつ (障害児相談支援事業所)	計画作成担当者	飯島 みすず
-----	-----------	----------	---------------------------------	---------	--------

◆ 概要(支援経過・現状と課題等)

H23年 2月 他県にて出生(父は転勤族)。初体重3800g(帝王切開) 定額3ヶ月 寝返り8カ月 這行はほとんどせず 座位9ヶ月 初歩1歳2ヶ月
 始語 1歳6ヶ月 1歳6ヶ月健診時、全体的に成長が遅いと母は感じており、小児科医に相談した。

H25年 1月 父の転勤に伴い、母の実家がある〇〇市に転入。(1歳9ヶ月)
 〇〇市での2歳児教室では、赤いリンゴのカードを提示された際受け答えが成立せず母親の心配が募る。

H25年 9月 〇〇市育児相談を受け、医療受診を勧められた。

H26年 4月 私立保育園入園(集団に馴染めず、ほぼ個別対応で保育園で過ごす) H27年3月 保育園退園

H27年 4月 児童発達支援センター利用開始。体を動かすことを好まず、寝転ぶことが多い。自分の思いと異なる事には盛り込んで抵抗する。人と関わる事は嫌いではないが一面的である。日常生活の流れの理解の定着に時間がかかる。力の加減分らず体当たりしたり、相手の顔を叩くこともある。動物が大好き。大きな音には耳をふさぐ。

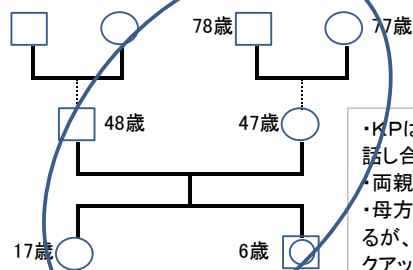
H29年 3月 児童発達支援センター 卒園。*教育支援委員会の判断は特別支援学校であったが、家族の強い願いで地元小学校への入学を決める。

H29年 4月 地元小学校(知障学級利用)入学
 学校側と協議の上、登下校並び授業には家族が当面付き添うことになった。

H29年 5月 学校生活にもだいに馴染み落ち着いて過ごせるようになってきていることから、家族の付き添いも減らしていく方向となる。
 母親より、福祉サービスを使いたい旨〇〇市担当課に相談が入る。

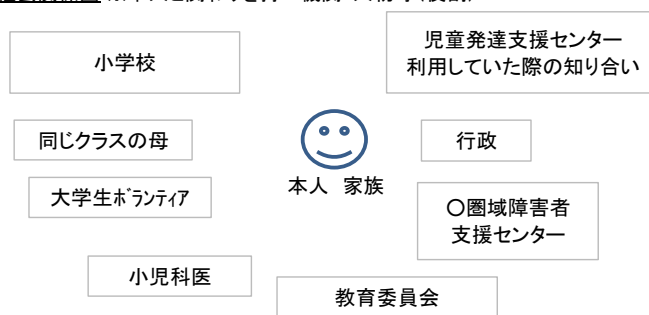
氏名	長野 あさま	生年月日	平成23年2月28日	年齢	6歳6ヶ月
住所	長野県〇〇市	電話番号	12-3456		
	持ち家	FAX番号	12-3456		
障害または疾患名	自閉症スペクトラム	障害支援区分		性別	男

家族構成 ※年齢、職業、主たる介護者等を記入



・KPIは母親だが、父親にも話し合いには参加してもらう。
 ・両親共働き(母はパート)
 ・母方祖父母が高齢ではあるが、全面的に子育てをバックアップしている。

社会関係図 ※本人と関わりを持つ機関・人物等(役割)



生活歴 ※受診歴等含む

H26年11月 A医療センター 発達外来受診。自閉症スペクトラムの診断が出る。
 医師からはSTとOTのオーダーが出たが実際には通えなかった。

H27年 4月 児童発達支援センターに移行後より、リハ開始。

H28年12月 巡回児童相談 療育手帳 B2取得
 <発達検査の経過>
 H27年 1月 新版K式 姿勢・運動 61 認知・適応 65 言語・社会 80 全領域 72
 H28年10月 発達検査 WIPPSI実施 言語性・動作性共にIQ45 全検査 FIQ=45 精神遅滞に分類

医療の状況 ※受診科目、頻度、主治医、疾患名、服薬状況等

・A医療センター発達外来 (4~5カ月に1回)
 ・H29年4月~エビリファイ服用(1回につき60日分処方)薬が終わる頃、母のみ再診。
 *入学後泣き叫び等不安症状が続き、医師に相談し服薬開始となった。支援級での適切な支援と服薬開始により、生活全体が落ち着いてきた。

本人の主訴(意向・希望)

お兄さん、お姉さんと楽しく遊びたい。(本人)
 *これまで、子ども集団にいながらも、同年代の子どもたちとの関わりは乏しかった。本人の感覚では、自分の要求を叶えてくれる存在は自分より大きなお兄さん、お姉さんであるとの思いがあると推察できる。

家族の主訴(意向・希望)

小学校入学後、良いモデルをみて子ども集団の中で成長してきている様子がある。言葉数も増えてきた。伸びてきている部分を活用して、場面に合った行動を学んで欲しい。(母)

◆ 支援の状況

	名称	提供機関・提供者	頻度	備考
公的支援(障害福祉サービス、介護保険等)	放課後等デイサービス	NPO法人 保育士 児童指導員	週2日	ようやく、友だちに興味が持てるようになり、地域のお祭り等にも、楽しく参加できるようになってきた。
その他の支援				